

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
人間と社会	4.社会の理解Ⅱ	徳淵 義信 (社会福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ① 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。
	[授業全体の概要] ① 高齢者福祉と介護保険制度 ② 障害者福祉と障害者保険制度 ③ 介護実践に関連する諸制度 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 高齢者保健福祉の動向とそれに関連する法体系の概要・各法律の役割を理解する。 ② 障害者福祉制度の法律の全体像を捉え、障害者総合支援制度について理解する。 ③ 介護実践に関連する種々の制度について理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	高齢者保健福祉の動向・ 高齢者保健福祉に関連する法体系		
2	/	介護保険制度①		
3	/	介護保険制度②		
4	/	障害者保健福祉の動向・障害者の定義		
5	/	障害者保健福祉に関する制度		
6	/	障害者総合支援制度①		
7	/	障害者総合支援制度②		
8	/	障害者総合支援制度③		
9	/	個人の権利を守る制度①		
10	/	個人の権利を守る制度②		
11	/	保健医療に関する制度①		
12	/	保健医療に関する制度②		
13	/	貧困と生活困窮に関する制度		
14	/	地域生活を支援する制度		
15	/	まとめ		
評価方法	出席日数・授業態度・筆記試験も総合評価とする。			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座2 中央法規出版 「社会の理解」 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
人間と社会	7.キャリア入門Ⅱ	出口 秀貴 徳永 智恵美 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業目的・ねらい]
	①「自分を知る」「社会を知る」「キャリアの決定方法を知る」を通して「生きること・学ぶこと・働くこと」についての理解を深める。
	[授業全体の概要]
	①授業を通して学生生活で何をするのかを明確にし「考える」、介護福祉実習や多くの経験を通して、自分の可能性を探り「試す」、なりたい自分になるために挑戦「挑む」、具体的目標に向けて活動する「磨く」、というサイクルを身につける。 ②課外講座やアクティブラーニングを通して、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ。
[授業修了時の達成課題(達成目標)]	
①介護福祉専門職として「自己理解・他者理解」を深め、「自分」を人にわかりやすく伝える力を身につけ、自分とは異なる価値観・経験をもつ人の話に耳を傾け、自分のキャリア形成に生かす。 ②社会と繋がるために必須のコミュニケーション能力を、グループワークやディスカッションを通して 磨く。 ③介護福祉士として働く自分がイメージできる。	

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	異なる価値観に触れる(宿泊研修)①		
2	/	異なる価値観に触れる(宿泊研修)②		
3	/	異なる価値観に触れる(宿泊研修)③		
4	/	異なる価値観に触れる(宿泊研修)④		
5	/	社会人基礎力(福岡介護の日啓発活動)①		
6	/	社会人基礎力(福岡介護の日啓発活動)②		
7	/	社会人基礎力(佐賀介護の日啓発活動)①		
8	/	社会人基礎力(佐賀介護の日啓発活動)②		
9	/	自分を知る(アクティブラーニング通して)②		
10	/	自分を知る(アクティブラーニング通して)②		
11	/	介護のキャリアデザインを考えよう①		
12	/	介護のキャリアデザインを考えよう②		
13	/	職業社会の基礎知識①		
14	/	職業社会の基礎知識①		
15	/	職業社会の基礎知識①		
評価方法	①出席及び受講態度 ②レポート提出および内容			
必須参考図書	<必須図書>適宜資料配布など <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
人間と社会	9.社会福祉援助技術	占部 尊士 (社会福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	・「生活」を「家族」「地域」「職業」「学習」「余暇」等の諸側面から総合的に把握し、ライフサイクルを考えられるようになること。 また、多様なライフスタイルから相互に様々な学びがあることを体験的に学ぶ。
	[授業全体の概要]
	・演習を通し、日本の社会保障や介護保険制度などの考えと仕組みを活用できるようになる。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)]
	・介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	社会、組織の概念		
2	/	ソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル		
3	/	地域社会における生活支援		
4	/	地域福祉の理念		
5	/	社会保障の基本的な考え方		
6	/	社会福祉法		
7	/	社会福祉援助サービスとグループ		
8	/	グループの基本的理解		
9	/	グループアプローチの展開		
10	/	社会福祉方法の統合化とコミュニティ・ソーシャルワーク		
11	/	介護サービスと他サービスの相違点		
12	/	介護サービスと他サービスの相違点		
13	/	対人関係とコミュニケーション		
14	/	組織におけるコミュニケーション		
15	/	コミュニティソーシャルワーカーに求められる資質と専門性		

評価方法	出席状況・授業態度・終講試験 総合評価
必須参考図書	<必須図書> 適宜資料を配布 <参考図書>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	13.介護の基本Ⅱ	大谷 久也 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。
	[授業全体の概要] 1.介護サービスや地域連携などフォーマル、インフォーマルな支援を学ぶ。 2.多職種協働による介護を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を学ぶ。 3.介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し、介護福祉現場の実際と関連させながら学ぶ。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1.介護福祉の基本的な考え方を理解する。 2.介護を必要とする対象者と暮らしの理解・支援に関する基礎知識を理解する。 3.介護における安全の確保を理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	介護福祉士を取り巻く状況		
2	/	社会福祉士及び介護福祉士法		
3	/	介護における専門職能団体の活動		
4	/	介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理	
5	/	介護福祉士の倫理②	日本介護福祉士会倫理綱領	
6	/	介護サービスの特性①	意味と特性	
7	/	介護サービスの特性②	種類と提供の場	
8	/	介護サービス提供の場とその特性①	高齢者に対する居宅系・入所系	
9	/	介護サービス提供の場とその特性②	障がい者に対する居宅系・入所系	
10	/	障がい者の介護と高齢者の介護		
11	/	多職種連携①	協働職種の理解と連携のあり方	
12	/	多職種連携②	利用者を取り巻く地域連携のあり方	
13	/	地域連携の意義と目的		
14	/	地域連携にかかわる機関の理解		
15	/	地域連携にかかわる機関の理解		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	介護を必要とする人の理解	生活の個別性と多様性を知る	
17	/	介護を必要とする人の理解	高齢者の生活の個別性と多様性についての理解	
18	/	介護を必要とする人の理解	高齢者の地域生活について知る	
19	/	介護を必要とする人の理解	介護保険制度・サービスの活用と生活の関係について知る	
20	/	介護を必要とする人の理解	ケアマネジメント・フォーマル・インフォーマルについて知る	
21	/	居宅サービスにおける多職種の機能と役割	意義と課題について理解	
22	/	高齢者の住まいについて理解	施設・居宅	
23	/	生活を支える基盤	制度・経済・健康について知る	
24	/	障がい者の生活の個性と多様性を理解	施設・居宅	
25	/	障がい者と家族・地域の関わりについて理解		
26	/	障がい者の施設サービスの仕組みについて理解		
27	/	障がい者施設における多職種連携の実際		
28	/	チームアプローチの意義・目的		
29	/	医療・保健・福祉職の役割し専門性		
30	/	まとめ	高齢者の暮らしの理解、障がい者の暮らしの理解	
評価方法	出席状況 ②授業態度 ③課題レポート ④筆記試験（中間・終講）を総合評価する			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 3 中央法規 「介護の基本Ⅰ」 最新介護福祉士養成講座 4 中央法規 「介護の基本Ⅱ」 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	14.介護の基本Ⅲ	吉村 理英 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。
	[授業全体の概要] 1.多職種協働による介護を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を学ぶ。 2.介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し、介護福祉現場の実際と関連させながら学ぶ。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1.協働する多職種の機能と役割を理解する。 2.介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する。 3.安全の確保のための基礎的な知識と事故への対応を理解する。 4.介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	介護における安全の確保		
2	/	介護における安全の確保		
3	/	リスクマネジメントとは何か		
4	/	リスクマネジメントとは何か		
5	/	リスクマネジメントとは何か		
6	/	リスクマネジメントとは何か		
7	/	リスクマネジメントとは何か		
8	/	感染症対策		
9	/	感染症対策		
10	/	感染症対策		
11	/	感染症対策		
12	/	多職種連携・協働の必要性		
13	/	多職種連携・協働の必要性		
14	/	多職種連携・協働に求められる基本的な能力		
15	/	多職種連携・協働に求められる基本的な能力		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	保健・医療・福祉職の役割と機能		
17	/	保健・医療・福祉職の役割と機能		
18	/	多職種連携・協働の実際		
19	/	多職種連携・協働の実際		
20	/	多職種連携・協働の実際		
21	/	健康管理の意義と目的		
22	/	健康管理の意義と目的		
23	/	こころの健康管理		
24	/	こころの健康管理		
25	/	身体の健康管理		
26	/	身体の健康管理		
27	/	労働環境の整備		
28	/	労働環境の整備		
29	/	労働環境の整備		
30	/	まとめ		
評価方法	① 出席状況 ②授業態度 ③課題レポート ④筆記試験（中間・終講）を総合評価する			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座4 中央法規 「介護の基本Ⅱ」 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	16.介護のコミュニケーションⅡ	鈴木 陽子 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<目的とねらい>
	・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
	<全体の概要>
	・情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について学ぶ。
	<終了時の達成課題(到達目標)>
1.介護福祉職として、利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーションの手順を理解する。	
2.介護福祉職チーム、多職種協働チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。	
3.チームコミュニケーションをふまえ、報告・連絡・相談の技術を活用し、記録の意義・目的とその活用がケアの質の向上につながる事を理解する。	
4.会議の意義や目的、種類、役割を理解し、事例検討における基本姿勢を理解する。	

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	家族との関係づくり		
2	/	家族への助言・指導・調整		
3	/	家族関係と介護ストレスへの対応		
4	/	チームのコミュニケーションとは		
5	/	「報告」「連絡」「相談」の技術①		
6	/	「報告」「連絡」「相談」の技術②		
7	/	記録の技術①		
8	/	記録の技術②		
9	/	会議・議事進行・説明の技術①		
10	/	会議・議事進行・説明の技術②		
11	/	事例検討に関する技術①		
12	/	事例検討に関する技術②		
13	/	事例検討に関する技術③		
14	/	情報の活用と管理のための技術①		
15	/	情報の活用と管理のための技術②		

評価方法	①出席状況 ②授業態度 ③終講試験 総合評価
------	------------------------

必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座5 中央法規 「コミュニケーション技術」 <参考図書>
--------	---

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	17.生活技術総論	鈴木 陽子 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p><授業の目的・ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活観が個人の生活背景や生活史の違いによって多様であることを学び、障がいのある人や高齢者の生活を理解し、生活支援の過程でニーズの発見と連携・協働するかを学習する。 <p><授業全体の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者の生活におけるニーズの把握から自立に向けた介護の再学習を行い、専門性のある知識を習得する。 <p><授業終了時の達成課題(到達目標)></p> <ol style="list-style-type: none"> 対象となる人の生活状況を整理し、ニーズの優先順位を考える。 ICFの視点に基づいて居住環境の生活の流れの中で理解する。 より専門的で根拠に基づいた幅広い知識を身につける。
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	生活支援の基本的な考え方	生活支援とは何か・ライフサイクルと生活の豊かさ・生活支援のポイント	
2	/	生活支援と介護過程	ICFの視点に基づく生活支援	
3	/	生活支援と介護過程	本人・利用者を理解するためのICFの視点	
4	/	生活支援とチームアプローチ	生活支援におけるチームアプローチの重要性	
5	/	生活支援とチームアプローチ	ライフステージとチームアプローチのあり方	
6	/	住まいの役割と機能	住まいの役割と機能を考える	
7	/	住まいの役割と機能	家族と生活習慣	
8	/	生活空間	人と空間	
9	/	生活空間	加齢と生活空間	
10	/	総括：自立に向けた移動の介護		
11	/	総括：自立に向けた身じたくの介護		
12	/	総括；自立に向けた食事の介護		
13	/	総括：自立に向けた入浴・清潔保持の介護		
14	/	総括：自立に向けた排泄の介護		
15	/	総括：休息・睡眠の介護		

評価方法	・出席状況 ・授業態度 ・終講試験 総合評価
------	------------------------

必須参考図書	<p><必須図書> 最新介護福祉士養成講座 6 中央法規 「生活支援技術Ⅰ」</p> <p><参考図書></p>
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	21.日常生活支援技術Ⅲ	塚本 真由美 (看護師)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<p><目的・ねらい></p> <p>・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p><全体の内容の概要></p> <p>1.それぞれの障害や疾病の理解と生活を支えるための観察の視点、支援の展開を理解する。</p> <p>2.それぞれの障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術を学ぶ。</p> <p><終了時の達成課題(到達目標)></p> <p>1.障害や疾病等生活する人の背景を理解し、生活支援の意義、多職種連携の目的を学ぶ。</p> <p>2.障害について医学的・心理的面から理解し生活上の困りごとや介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>3.障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術の実践ができる。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは		
2	/	肢体不自由に応じた介護		
3	/	肢体不自由に応じた介護		
4	/	聴覚障害に応じた介護		
5	/	聴覚障害に応じた介護		
6	/	聴覚・言語障害に応じた介護		
7	/	聴覚・言語障害に応じた介護		
8	/	聴覚・言語障害に応じた介護		
9	/	重複障害(盲ろう)に応じた介護		
10	/	(内部障害)心臓機能障害に応じた介護		
11	/	(内部障害)呼吸器機能障害に応じた介護		
12	/	(内部障害)腎機能障害に応じた介護		
13	/	(内部障害)膀胱・直腸機能障害に応じた介護		
14	/	(内部障害)小腸機能障害に応じた介護		
15	/	(内部障害)HIVによる免疫機能障害に応じた介護		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	(内部障害) 肝臓機能障害に応じた介護		
17	/	重症心身障害に応じた介護		
18	/	知的障害に応じた介護		
19	/	知的障害に応じた介護		
20	/	精神障害に応じた介護		
21	/	高次脳機能障害に応じた介護		
22	/	高次脳機能障害に応じた介護		
23	/	発達障害に応じた介護		
24	/	発達障害に応じた介護		
25	/	(難病) 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) に応じた介護		
26	/	(難病) パーキンソン病に応じた介護		
27	/	(難病) 悪性関節リウマチに応じた介護		
28	/	(難病) 悪性関節リウマチに応じた介護		
29	/	(難病) 筋ジストロフィーに応じた介護		
30	/	(難病) 筋ジストロフィーに応じた介護		
評価 方法	① 授業態度 ② 提出レポート ③ 筆記試験 (中間・終講) により総合評価する			
必須 参考 図書	< 必須図書 > 最新介護福祉士養成講座 8 中央法規 「生活支援技術Ⅲ」 < 参考図書 >			
その他				

領域	科目	担当者（職種など）	授業形態	対 象	2 年
介護	23. 介護におけるターミナルケア	酒見 久瑞子 (看護師)	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30 (15 回)
				単位数	1

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。</p> <p>②終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチの実践について役割を理解する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①人生最終段階のとらえ方を学び、介護の考え方と介護福祉職の役割を学ぶ。</p> <p>②人生の最終段階における意思決定のあり方とアセスメントの視点を学ぶ。</p> <p>③死をむかえる人の支援、むかえた人とその家族への介護を学ぶ。</p> <p>④多職種連携とその役割、関わりかたとグリーフケアについて理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>①終末期の意義と介護の役割について又チームケア・多職種連携について理解する。</p> <p>②最終段階における意思決定のあり方とアセスメントについて理解する。</p> <p>③エンゼルケアの手順と留意点について理解する。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	人生の最終段階におけるケアの意味		
2	/	人生の最終段階におけるアセスメントの視点		
3	/	死を迎える人の介護		
4	/	死を迎えた人の介護		
5	/	亡くなったあとの介護・グリーフケア①		
6	/	亡くなったあとの介護・グリーフケア②		
7	/	人生の最終段階における多職種連携の必要性		
8	/	多職種の役割と介護福祉職との連携		
9	/	人生の最終段階におけるアセスメントの視点		
10	/	死を迎える人の介護・死を迎えた人の介護		
11	/	亡くなったあとの介護・グリーフケア		
12	/	人生の最終段階における多職種連携の必要性		
13	/	多職種の役割と介護福祉職との連携		
14	/	多職種の役割と介護福祉職との連携		
15	/	地域ごとの埋葬習慣		

評価方法	出席状況 授業態度 終講試験
必須参考図書	<p><必須図書></p> <p>最新介護福祉士養成講座7 中央法規出版 「生活支援技術Ⅱ」</p> <p>適宜資料配布</p> <p><参考図書></p>
その他	

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	26.介護過程演習Ⅱ	野口 清孝 (介護福祉士)	講義 演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を理解する。 ②アセスメントでの課題を利用者本位の視点で明確に捉えられ、立案することで必要な介護サービスの提供ができ、チームアプローチとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できる能力を養う。
	[授業全体の概要]
	①利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れについて演習を通して学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ①5W1Hを踏まえた介護計画を立案できる。 ②利用者の状態や、状況に応じた根拠に基づいた介護過程の展開が出来る

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	実習時の情報収集の方法について		
2	/	実習時のアセスメントについて		
3	/	事例検討① (個別介護計画 NO4 について)		
4	/	事例検討② (個別介護計画 NO5 について)		
5	/	個別介護計画表 NO. 6 記入方法 (援助内容について)		
6	/	事例をもとに個別介護計画 NO.6 を記入		
7	/	個別介護計画表 NO. 7 記入方法 (結果・評価について)		
8	/	事例をもとに個別介護計画 NO.7 を記入		
9	/	事例を基に個別介護計画表 NO.1.2 記入		
10	/	事例を基に個別介護計画表 NO.3 記入		
11	/	事例を基に個別介護計画表 NO.4.5 記入		
12	/	立案した個別介護計画の事例検討		
13	/	事例を基に個別介護計画表 NO.3 記入		
14	/	事例を基に個別介護計画表 NO.4.5 記入		
15	/	まとめ		
評価方法	①出席 ②授業態度 ③課題レポート			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 9 中央法規出版「介護過程」第2版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者（職種など）	授業形態	対 象	2 年
介護	27.介護過程演習Ⅲ	出口 秀貴 大谷 久也 吉村 理英 徳永 智恵美 (専任教員)	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30 (15回)
				単位数	1
実務経験	吉村：介護福祉士として臨床経験 25 年・介護福祉士養成校助手経験 6 年 大谷：介護福祉士として臨床経験 8 年・介護福祉士養成校教員経験 24 年 出口：介護福祉士として臨床経験 15 年・介護福祉士養成校教員経験 2 年 徳永：看護師としての臨床経験 24 年・介護福祉士養成校教員経験 7 年・その他教育歴 11 年				

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ①本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。 [授業全体の概要] ①介護過程演習の総まとめとして介護過程を理解し、実践に基づいた展開を行い理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①実行した個別介護計画について評価をすることができる。 ②実践での介護過程の展開を振り返り、展開方法を理解する。			
	授 業 計 画			
回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	科目の説明		
2	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
3	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
4	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
5	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
6	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
7	/	介護実習で行った実践での介護過程の展開の振り返り		
8	/	他者の介護過程を共有し、意見交換を行い、修正する。		
9	/	他者の介護過程を共有し、意見交換を行い、修正する。		
10	/	他者の介護過程を共有し、意見交換を行い、修正する。		
11	/	他者の介護過程を共有し、意見交換を行い、修正する。		
12	/	介護過程の課題を明確にする		
13	/	ケアマネジメントと介護過程の関係性について		
14	/	利用者の様々な生活と介護過程の展開		
15	/	介護過程の展開によって変わる生活について		
評価方法	①出席②授業態度③課題レポート			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 9 中央法規出版「介護過程」第 2 版 <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
こころとからだのしくみ	36.認知症の理解Ⅱ	城戸 由香里 (公認心理師)	講義 演習	開講期	後期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ・認知症のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために、必要とされる心理的・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。
	[授業全体の概要] ①認知症を取り巻く状況をふまえ、認知症を引き起こす疾患の特徴と、主な症状、心身の変化、生活への影響を理解する。 ②認知症の人を介護する家族のストレスの原因や、対処法について理解し、望ましい環境と地域のサポート体制、他職種連携と協働について理解する。
	[授業の目標] ①症状から派生する生活への影響をアセスメントし、介護を実践するための基礎的能力を学ぶ。 ②認知症がある人と家族に対し専門職や地域によるチームサポート体制について理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	障害をかかえて生きることへの支援	認知症を取り巻く状況 これまで-今-これから	
2	/	障害をかかえて生きることへの支援	認知症ケアの理念と視点	
3	/	障害をかかえて生きることへの支援	認知症ケアの理念と視点	
4	/	障害をかかえて生きることへの支援	認知症当事者の視点からみえるもの	
5	/	障害をかかえて生きることへの支援	認知症当事者の視点からみえるもの	
6	/	認知症ケアの実際	パーソン・センタード・ケア	
7	/	認知症ケアの実際	認知症の人の理解と認知症の人の特性を ふまえたアセスメント・ツール	
8	/	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション	
9	/	認知症ケアの実際	認知症の人へのケア認知症の人への さまざまなアプローチ	
10	/	認知症ケアの実際	認知症の人の終末期医療と介護環境づくり	
11	/	介護者支援	家族への支援	
12	/	介護者支援	家族への支援介護福祉職への支援	
13	/	介護者支援	介護福祉職への支援	
14	/	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり	
15	/	認知症の人の地域生活支援	多職種連携と協働	

評価方法	レポート・筆記試験により評価
------	----------------

必須参考図書	<必須図書>最新 介護福祉士養成講座13 中央法規出版 「認知症の理解」 <参考図書>
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
こころとからだのしくみ	41.こころとからだのしくみⅢ	山崎 京子 (看護師)	講義	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	[授業の目的・ねらい]
	①介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造と機能を理解する。 ②運動学、生理学をもとに加齢や様々な疾患でもたらされる生活障害はどのようなメカニズムで生じるか理解する。 ③人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響とその支援に必要な基礎を理解する。
	[授業全体の概要] ・生活支援技術に関連した入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、終末期におけるこころとからだのしくみについて学ぶ。
	[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①入浴・清潔がもたらす心身への効果と、その必要性について理解する。 ②排尿・排便のしくみと、観察、記録、報告の重要性を理解する。 ③排泄障害の種類と特徴を理解し、対処方法、対応について理解する。 ④休息・睡眠のしくみと睡眠障害の種類と特徴を捉え、その観察ポイントを理解する。 ⑤死に直面した人の心理状態、こころの変化を理解し、利用者と家族へのケアと終末期ケアの医療職との連携ポイントを理解する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	入浴・清潔保持のしくみ ①		
2	/	入浴・清潔保持のしくみ ②		
3	/	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ①		
4	/	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 ②		
5	/	変化の気づきと対応 ①		
6	/	変化の気づきと対応 ②		
7	/	排泄に関連したしくみ ①		
8	/	排泄に関連したしくみ ③		
9	/	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響		
10	/	変化の気づきと対応		
11	/	休息・睡眠に関連したしくみ		
12	/	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響		
13	/	変化に気づくためのポイント		
14	/	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方・ 「死」に対するこころの理解		
15	/	終末期から危篤状態、死後のからだの理解・ 終末期における医療職との連携		

評価方法	①出席率 ② 授業態度など ③レポート提出率と内容(小テスト込) ④ 終講試験	総合評価
------	--	------

必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座Ⅱ 中央法規出版 <参考図書>	「こころとからだのしくみ」
--------	-------------------------------------	---------------

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
医療的ケア	43.医療的ケア(演習)	春口 晴美 春口 好介 (看護師)	演習	開講期	前期
				時間数(回数)	30(15回)
				単位数	1

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①安全に実施するための基礎的知識と手順・留意点を理解する。 ②安全・適切に医療的ケアが実施できる技術を習得する。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①喀痰吸引及び経管栄養の実施に関する手順・留意点を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>・シミュレーターを使用し喀痰吸引及び経管栄養の実施に必要な知識と技能を身につける。</p> <p>①喀痰吸引の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。 ②経管栄養の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。 ③救急蘇生法の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	喀痰吸引・口腔内①		
2	/	喀痰吸引・口腔内②		
3	/	喀痰吸引・鼻腔内①		
4	/	喀痰吸引・鼻腔内②		
5	/	喀痰吸引・非侵襲的①		
6	/	喀痰吸引・非侵襲的②		
7	/	喀痰吸引・気管カニューラ内部①		
8	/	喀痰吸引・気管カニューラ内部②		
9	/	喀痰吸引・侵襲的①		
10	/	喀痰吸引・侵襲的②		
11	/	経鼻経管栄養①		
12	/	経鼻経管栄養②		
13	/	胃ろう・腸ろう経管栄養		
14	/	胃ろう・腸ろう経管栄養半固形		
15	/	救急蘇生法		

評価方法	技術試験で8種5回目以降 全項目全て(㊟)にて合格となる。(※技術試験期間内に修了すること。)
------	---

必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座15 中央法規出版「医療的ケア」 <参考図書>
--------	---

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
医療的ケア	44.医療的ケア(実地研修)	高邦会グループ (看護師)	実習	開講期	前期
				時間数(回数)	適宜
				単位数	

授業概要など	[授業の目的・ねらい] ①喀痰吸引及び経管栄養の資格取得の為、実施に必要な知識、技能を習得する。
	[授業全体の概要] ①喀痰吸引及び経管栄養の決められた項目の研修を行う。
	[授業修了時の達成課題(到達目標)] ①1号研修: 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューラ内部) 経管栄養(経鼻・胃ろう)を規定の回数合格する。 ②2号研修: 1号研修の5項目より4項目以下で選択し、規定の回数合格する。

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
	/	<1号研修>	喀痰吸引 ①口腔内 ②鼻腔内 ③気管カニューラ内部 経管栄養 ①経鼻 ②胃ろう・腸ろう 上記5種類全てを実施し、全て合格することで修了となる。	
	/	<2号研修>	上記1号研修項目より4種類以内の実施、合格にて修了となる。 ※口腔内の喀痰吸引は10回以上、 その他喀痰吸引および経管栄養を20回以上実施する。	

評価方法	①必要回数以上の実施 ②実施回数の7割以上合格 ③最後の3回合格 上記を満たすと修了となる。
------	---

必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉養成講座 15 中央法規出版「医療的ケア」 大川看護福祉専門学校介護福祉学科研修及び実習に関する要項 <参考図書>
--------	--

その他	
-----	--

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	29.介護総合演習Ⅱ	出口 秀貴 徳永 智恵美 大谷 久也 吉村 理英 (専任教員)	講義 演習	開講期	通年
				時間数(回数)	60(30回)
				単位数	2

授業概要など	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。</p> <p>②実習Ⅱに向けての個別ケアのための介護過程の展開方法を理解する。</p> <p>③実習Ⅱの振り返りや実践した介護過程のまとめや報告ができる。</p> <p>[授業全体の概要]</p> <p>①個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題の明確化、介護計画の作成、実習後の評価、計画の修正といった介護過程の展開の理解を深めていく。</p> <p>②介護実習Ⅱで展開した介護過程を介護事例研究として発表する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①介護過程の展開のために個別の学習到達状況に応じた他科目で学習した知識や技術の総合ができ、介護実習で実践できる。</p> <p>②介護事例研究を通して、様々な書物を読み、実践した介護過程を振り返ることができる。</p>
--------	--

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1	/	実習要項の説明		
2	/	実習施設の理解		
3	/	実習施設の理解		
4	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
5	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
6	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
7	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
8	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
9	/	介護実習Ⅱの実習記録準備		
10	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
11	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
12	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
13	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
14	/	介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ		
15	/	介護実習Ⅱの最終的な記録のまとめ		

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
16	/	自分史作成		
17	/	自分史作成		
18	/	自分史作成		
19	/	自分史作成		
20	/	自分史作成		
21	/	自分史作成		
22	/	自分史作成		
23	/	エンディングノート作成		
24	/	エンディングノート作成		
25	/	エンディングノート作成		
26	/	エンディングノート作成		
27	/	エンディングノート作成		
28	/	エンディングノート作成		
29	/	介護観について		
30	/	介護観について		
評価方法	①出席状況 ②授業態度 ③提出物の内容・提出率 ④報告会の評価 ⑤中間・終講試験 総合評価			
必須参考図書	<必須図書> 最新介護福祉士養成講座 10 中央法規出版「介護総合演習・実習」第2版 大川看護福祉専門学校介護福祉学科 研修及び実習に関する要綱 <参考図書> <参考図書>			
その他				

領域	科目	担当者(職種など)	授業形態	対象	2年
介護	32. 介護実習Ⅱ	出口 秀貴 徳永 智恵美 大谷 久也 吉村 理英 (専任教員)	実習	開講期	前期
				時間数(回数)	195 時間 (26 日間)
				単位数	4

授業概要など	<p>[実習全体の目的・ねらい]</p> <p>①個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p>[実習全体の内容の概要]</p> <p>①一つの施設・事業等において一定期間以上継続して行う実習。 ②利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を継続的に実践する。</p> <p>[実習終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①個別介護計画を立案し、介護過程を展開できる。 ②実習施設で実施されているプログラムに参加し、介護全般について理解できる。 ③チームの一員として介護を遂行できるような、専門的視野と態度を身に付ける。</p>
--------	---

授 業 計 画

回	月/日	テーマ	内容	備考
1		介護老人福祉施設・介護老人保健施設・グループホーム・障害者施設などにおいて26日間の介護実習を行う。	1)個別の介護計画を立案し、介護過程を展開する。	
			2)24時間のケアを通し、利用者の生活全般を理解し、介護のあり方を考える。	
			3)地域社会と施設の関係について理解を深め、家族を含めた地域へのはたらきかけについて学ぶ	
			4)終末期介護について学ぶ。	
			5)介護福祉専門職としての職業倫理、社会的役割、使命などについて考え、組織の一員としての責任とチームケアの重要性を理解する。	

評価方法	①実習指導者評価 ②記録等の提出率 以上の総合評価	③グループメンバーとしての協力度 ④実習態度
------	---------------------------------	---------------------------

必須参考図書	<必須図書>最新介護福祉士養成講座10 中央法規出版「介護総合演習・介護実習」 大川看護福祉専門学校介護福祉学科研修及び実習に関する要綱 <参考図書>
--------	---

その他	
-----	--